

# 平成30年度 市野与進こども園事業報告

2019(平成 30)年度は特に、以下の通り「教育・保育の質と保育教諭の資質向上」に力を入れてきました。

## ● 保育教諭と教育・保育の質の向上

子どもの発達を保証する保育（こどもの発達過程を知る）……教育・保育の基本は一人一人の発達を知り、発達過程に合わせた環境を用意し、環境を通した保育。

これを基本として

- (ア) 保育環境の勉強会
- (イ) 年齢別研究保育会
- (ウ) 月一回 以上児・未満児に分かれ、研修会
- (エ) 勉強会・キャリアアップの積極的な参加  
キャリアアップ研修参加者12名（そのうち2項目受講したものが2名）
- (オ) 保育教諭自身の自己研鑽として講師を招いての勉強会を行った。浜松学院大の石野純子先生を招いて環境について研修を実施。令和元年度も引き続き計画しています。
- (カ) レッスンスタディー・ビデオカンファレンスは今期は実施できなかった。
- (キ) 重大事故につながる保育現場の見直し  
自園の事故等の現状は、けがの程度は軽いが、「ヒヤリハット」が子どもの発達過程のとらえ方や保育の質向上につながっていないと気付き、次年度は「ヒヤリハット研修」に重点を置きたいと考えている。

研修会を進めることにより、若い職員の「保育について勉強しなければ」といった意気込みを感じ、一歩前進をしました。

以上を踏まえ質の高い教育・保育の取り組みを実施してきました。

※ 保育の質の向上の一環として、職員が二年間園内で取り組んできた食育に関する研修が、NPO キッズエクスプレス21食育コンテストに応募した結果、優秀賞に選ばれました。

## ● 職員の働きやすい職場づくり

- (ア) 年次休暇を取りやすい環境を作り出す
- (イ) 子育てしやすい職場づくり
- (ウ) 休憩のとりやすさを考える
- (エ) 効率よく仕事を進める。
- (オ) 職員自身が時間配分し、実行するよう各クラス計画表作成

・浜松市の施策  
・職員確保の現状  
・保育補助の利用  
課題を次年度で対応

複数担任でクラス経営を実施した  
保育に係る事務的なことは、園長・主幹に申し出るようにしているが職員には意識改革が必要に感じた

## ● 施設整備

(ア) 昨年度の増築工事の際、本年度に持ち越した南側テラスと門扉の工事が今年度完成しました。これにより、より一層子どもの安全性が高まりました

(イ) 予定していた園舎西側の土地 600 坪の購入は、農地法の関係から今期実施できませんでした。

## ● 地域貢献

- (ア) 利用者の子育て支援
- (イ) 地域子育て支援
- (ウ) 離乳食教室
- (エ) ベビーマッサージ
- (オ) マタニティカフェ

行事・制作物などは家庭で味わえないと、来園することをとても楽しみにしている人が多い。保護者から入園のための情報収集をうける中で、いろいろな相談を受けることが多かった。また 離乳食で悩みを抱えている親が多くいることがわかり、離乳食教室を地域に広める手段を考える必要性を感じた。

マタニティカフェ・ベビーマッサージ教室を同時に開催することで、育児相談なども話しやすくなり、参加人数は年間 32 名であった。全国社会福祉協議会出版の保育雑誌「保育の友」2月号に地域に向けた社会福祉の実践コーナーにマタニティカフェ・ベビーマッサージ教室の取り組みが掲載され、自園 HP にも掲載した。

30年度 事業報告

法人の基本方針	項目	事業計画の内容	事業報告
<p>1.保育サービスの質の向上</p>	<p>① 保育指針、認定こども園教育・保育要領指針(以下保育指針等)に沿った保育の実践</p> <p>● 国、市の方針、環境変化に応じた園の経営</p>	<p>● 保育・保育教諭の質の向上を目指し</p> <p>◇ 認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育指針に向けた研修</p> <p>● 職員研修</p> <p>◇ 研究保育・ビデオカンファレンス・レッスンスタディーの実施</p> <p>◇ 「食育」計画にそって実践</p> <p>● 子どもの発達を保証する保育(子どもの発達過程)</p> <p>◇ 保育に生かせる人事考課・保育評価の併用</p> <p>・事故防止からくる子どもの育ち分析…… (事故報告・ヒヤリハット研修から子ども育ちと保育の見直し)</p> <p>● 教育・保育</p> <p>● 保育教諭主導の「させる保育」から子ども自ら「やってみよう保育」へ</p> <p>● 子どもの発達を保証する保育</p> <p>◇ 子どもの「今」を大切に 「子どもの心育ちの受け止め」</p> <p>◇ 保育教諭は一人ひとりの関わりを大切にしながら、子どもの思いを絡み合わせ、「明日につながる振り返り」を行う。</p> <p>◇ 5歳児までに育てたいこどもの姿 「遊びを通して人としての育ちを大切にしながら園での教育・保育の在り方をしっかりと認識し「生きる力」の基礎を育てる」</p> <p>・人との関わり……</p> <p>・自分の思いを言葉にする</p> <p>・集団生活や遊びのルールを守る</p> <p>・相手を思う気持ちを育てる 基本的生活習慣の確立</p> <p>・基本的マナーを身につける(あいさつ)</p> <p>・履物を揃える・自分の持ち物の整理整頓など)</p> <p>情緒の安定と5感を大切にしながら「挑戦する気持ち」、「意欲」、「体験する楽しさ」を育てる。 (見る→意欲(やってみよう)→真似る(おもしろい)→学ぶ)</p> <p>● 「養護」</p> <p>親の愛着関係と周りの大人との信頼関係を図りながら情緒の安定、日々心安らかに安心して生活を送る。</p>	<p>・基本的な保育教諭の計画作成・保育における基本行動を学ぶため以下の内容を実施した。</p> <p>研究保育 3歳未満児勉強会 3歳以上児勉強会 市野会議(保育内容に特化した会議)を実施し、少しずつ職員の行動に変化が見られた。次年度も継続する</p> <p>・保育を行っていく場合、子どもの発達をしっかりと見極めていくことが大切と考え、保育教諭なりに保育環境の勉強が必要になることから浜松学院大学准教授 石野純子先生に「子どもの意欲を高める環境」と題して講演を実施した。これは次年度も継続する。</p> <p>・最近保護者の子育ての考え方が変化をしてきたように感じる。一部の親には「お金を出せば、子育ても人任せ」的な部分が見える。保護者への講演会を実施したいと考えるが保護者自身の参加が少なく開催ができない状態。</p> <p>・新しく教育・保育要領・保育指針が変わったことで、親・家庭の役割、こども園の役割をしっかりと伝えながら、親の愛着関係と周りの大人の信頼関係の大切さを伝えるように努力した。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者への積極的な子育て支援</li> <li>● 保育環境の整備</li> <li>● 環境を守る取り組み</li> <li>● 行政に向けたタイムリーな情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成31年度に向けて1号認定受け入れ準備</li> <li>● 親育ちを考える。(子どもが人として育つために)</li> <li>● 親子の愛着関係を作る支援</li> <li>◇ 子育て支援を実施するとともに子どもの「心育で」の大切さを知らせる</li> <li>◇ 子育てに大切なこと・職員による親子触れあい遊びの提唱</li> <li>◇ 祝日保育の実施</li> <li>● 保育環境の見直し</li> <li>◇ 子どもの育ちと教育・保育のねらいの環境構成</li> <li>◇ 子どもの意欲を高める身近な環境研修</li> <li>◇ 職員配置の充実・・・0歳児 3対1に1名加配 1歳児 5対1</li> <li>◇ 土地購入にあたって園庭・駐車場整備の計画利用プラン作成</li> <li>● 社会状況・経営状況を1人ひとり把握し、職員全員ができることから始める</li> <li>◇ 節電対策・・・電力会社情報資料の有効活用と職員伝達</li> <li>◇ ゴミの省力化</li> <li>◇ 職員・3歳以上児に「自分のポケットにハンカチを」運動実施</li> <li>◇ 園児たちに資源の大切さを知らせる</li> <li>◇ 水の出し出っ放し・漏水等の確認</li> <li>◇ 家庭での空き缶回収</li> <li>◇ 責任者は運営状況をHPや閲覧しやすいように提示する。</li> <li>● 地域・利用者・就職希望者に向けた教育・保育内容が見える園</li> <li>◇ ホームページを通して、子どもの笑顔、行動など様子がしっかりと伝わるように伝え方を工夫する。</li> <li>● 教育・保育のプロセスを保護者に伝える</li> <li>◇ (園の考えや保育教諭の思い)</li> <li>◇ 教育・保育の様子をよりイメージしやすく伝える</li> <li>◇ エピソード記録に基づき、ボード・ホームページ・クラス便り・行事・教育・保育の取り組み発表・園内掲示利用して伝える</li> <li>◇ 正規・非常勤・パート職員も含めて教育・保育の記録(1日の振り返り)の取り方の研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1号認定者は現在のところ2名の申し込みがあった</li> <li>・親育ちを考える</li> <li>・親にとっての便利な園ではなく、子どもの育ちを一番考えていく保育集団目指した。</li> <li>・平成31年2月16日(土)に浜松学院大学准教授 石野純子先生に「子どもの意欲を高める環境」と題して講演会を実施し、質の向上に努めた。</li> <li>・在園児下の子の入園優先があり、保育教諭の確保の難しさと出産予定者のため職員のゆとりがなくなってしまった。</li> <li>・HP委員会による園の情報を細部にわたって提供できるよう内容を刷新した。</li> <li>・増築時に大型テレビを購入し毎日の子どもの様子を玄関前で放映し、保育の見える化を図り定着をした。</li> <li>・正規・非常勤の枠組みを外しての保育を継承していることもあり、非常勤保育教諭も研修には積極的に参加できてきた。</li> </ul>
--	--	---	--

<p><b>職員の確保・育成</b></p>	<p><b>職員の働きやすい環境づくり、待遇改善</b></p> <p><b>計画的な研修</b></p> <p><b>採用関係等対外的にタイムリーな情報発信</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 早期採用計画を明確にする。各園の情報収集を行う</li> <li>◇ 4月に行う県保連・浜松民間園長会主催の合同就職説明会の有効利用を行う</li> <li>◇ 法人全体、職員全体で、積極的な新規採用活動を実施する。</li> <li>◇ 新規採用募集要項を見直しながら計画を立案する</li> <li>◇ 職員の給与改定による処遇改善を進める。</li> <li>◇ 責任を明確した役割分担</li> <li>◇ 面談・対話を通し、園長・主幹教諭に意見を言いやすい環境を作る</li> <li>◇ 正規職員・パート職員が自己発揮できる職場作り</li> <li>◇ 有給休暇を取りやすい人事配置を行う。</li> <li>◇ 結婚・育児のしやすい職場環境の構築</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「選ばれるこども園」をめざした人材育成をする。職員研修の充実</li> <li>◇ こども園教育・保育要領改正に向けた法人研修</li> <li>◇ 実行・実践を確実にを行う自己チェック分析</li> <li>◇ 食育計画作成後の実践食育研修 (年4回 吉田たか子氏)</li> <li>★ ふれあい遊びのための研修・・・年2回</li> <li>★ 正規職員・パート職員がともに同じ研修に参加 (正規・パートとの区別なく全員が研修に参加ができるよう配慮)</li> <li>★ 処遇改善Ⅰ・Ⅱを生かしたキャリアパス実施の研修充実計画</li> <li>★ 職員間での情報を共有する。</li> </ul> <p><b>★就職希望者に向けた教育・保育内容が見える園</b> ホームページを通して、子どもの笑顔、行動など様子がしっかりと伝わるように伝え方保育をわかりやすく工夫する。 採用者にわかりやすく求人情報提供をする。 園見学を参加しやすくする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員面談を通して職員一人一人の悩み事を聞き解決できるように対応した。保育に対しても他者の気づき等を基に話合うことができ、これを機会に結婚・育児がしやすい環境を整え、雰囲気づくりに心がけた。しかし 休憩時間が少しでもとれるよう職員と話し合いをしていく中で、現状の配置状況では難しく人的配置を十分にすることが必要であることを感じた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修に遊び込める環境づくりに取り組むが難しさもあり、来年度に継続する</li> <li>・食育研修は食育計画も出来上がり、今年度は「楽しくマナーを身につける」をテーマに保育の中の食育に下記の重点をおいた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・箸・スプーンの持ち方</li> <li>・挨拶をしっかりと</li> <li>・正しい姿勢で食べる</li> <li>・手洗い、口拭き</li> </ul> </li> <li>・研修成果をキッズスエクスプレス21の食育コンテストに応募した結果優秀賞をとることができた。保育雑誌や食育情報誌等に掲載され、「いただきます、ごちそうさま」の雑誌に園紹介をされることになった</li> <li>・ホームページをリニューアルし、求職者にわかりやすく情報提供をする</li> </ul>
------------------------	---	---	---

<p>地域への 貢献</p>	<p>地域貢献活動の充 実</p> <p>地域に対するタイ ムリーに情報発信</p> <p>環境を守る取り組 み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 親子ひろばのプログラムの充実</li> <li>◇ 手作り離乳食とおやつと試食会</li> <li>◇ 妊婦懇談会(マタニティカフェ)・・・妊産婦と助産師及び職員懇談会</li> <li>◇ 子育て中の親と職員の交流会(マザーズスクエア)</li> <li>◇ 親子触れあい遊びクラブ 1歳～2歳</li> <li>◇ ベビーマッサージ・・・子育てに大切なこと。・1回コース</li> <li>◇ 保育参加・・・子どもとの関わり方や遊びの様子を見て、家庭での子育ての参考にしてもらおう。園の保育内容を見て、感じてもらう。</li> <li>◇ 地域ボランティアの活用とこども園 教育・保育の情報発信をする</li> <li>● <b>地域・利用者に向けた教育・保育内容が見える園</b> ホームページを通して、子どもの笑顔、行動など様子がしっかりと伝わるように保育の伝え方を工夫する。</li> <li>● <b>教育・保育のプロセスを今後利用しようする人にわかりやすく伝える</b> (園の考えや保育教諭の思い)</li> <li>◇ 教育・保育の様子をよりイメージしやすく伝える</li> <li>◇ エピソード記録に基づきホームページ等・教育・保育の取り組み発表・園内掲示利用して伝える (園の考えや保育教諭の思い)</li> <li>◇ 子育てボランティアの活用 ・親子広場での育児相談</li> <li>◇ 待機児童保護者及び将来保育園・こども園に預けたい保護者に情報提供。保護者の悩みの共有・支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子育ての方は保育参加を園の情報公開ととらえ、参加数も増えている。</li> <li>・保育雑誌等で「地域に向けた社会福祉の実践」に紹介されたことをホームページにのせることで、利用者が増えることに期待したい。</li> <li>・マタニティカフェ・ベビー・マッサージ教室を合同で開催したことで子育て相談も増えた。</li> </ul> <p>・ここ数年保育相談で、転園相談が増えていることもあり、第一子の園選びは慎重に園選びをした方がよいことを話す。</p>
<p>法人、基 盤強化</p>	<p>経営の把握と無駄の排除</p> <p>国、市の方針、環境変化に応じた園の経営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>予算は現状を想定しながらバランスよく考え立案をし、健全なこども園運営を行う。</b> 事前調査をしっかりと行い、計画的に予算編成をする</li> <li>● 責任者は職員に運営状況を丁寧に説明する</li> <li>● 区の情報を確認しながら環境の変化に対応</li> <li>● 園長会・近隣園と情報交換及び情報共有</li> </ul>	<p>増築の詳細を十分に考え立案したつもりではあったが、後から思い付いたものも多くその点費用をかけてしまった</p>

園児数 4月・3月比較 3/1現在

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
2018.4	12	29	32	32	25	22	152
2019.3	19	30	32	32	25	22	160

途中入園児……8人

職員数 4月・3月比較 3/1現在

	園長	主幹教諭	副主幹	保育教諭	栄養士	調理員	事務員	用務員	育児休業	合計
2018.4	1	1	1	22	1	4	1	1	4	36
2019.3	1	1	1	25	1	3	1	1	1	35

※実質保育士3名退職であったが、新規採用と育児休業復帰のため年度末の差は1名となる

※重大事故……医師の診察を受ける事故はあったが、重大事故につながることはなかった。

※苦情受付け……特にありませんでした